

令和7年度 佃中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 佃中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	126	48	39	8.6	16.2	学校	454
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	123	61.1	48.6	50.4	43.2	50.5	6.9	6.1	12.9	9.5	6.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	118	66.9	45.0	54.1	49.4	51.8	6.5	5.8	12.0	3.2	7.9
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	126	63.5	57.0	58.3	68.6	67.6	8.6	—	7.5	—	3.8
	大阪市	—	—	56.7	—	63.0	—	—	—	—	—	—
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	119	110.6	107.9	152.2	106.7
9月2日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	116										
2年 男子	学校	28.75	26.83	38.27	50.32	79.63	-	7.75	184.07	19.64	40.67
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.68
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	20.07	22.61	43.05	44.54	54.38	-	9.14	161.09	11.40	45.89
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 佃中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【国語】

【成果と課題】

1. 前年度からの課題であった複雑な情報を処理し、論理的に考察する応用力を図る、思考力、判断力、表現力についての問題平均正答率において48.9%であり、前年度から向上している。
2. 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかを問う問題の正答率が69.8%であった。全国平均が63.3%であり、全国平均を大きく上回った。物語文における人物像を捉える記述力の高さは、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を正確に捉える力が確認された。
3. 文章構成や展開表現の効果、根拠を明確にして記述する力の不足が課題である。

【数学】

【成果と課題】

1. 数学の平均正答率は39% (15問中5.19問) であり、全国平均の48.3% (15問中7.2問) を下回る結果となった。数学に対する学習の定着度に課題がある。
2. 基礎的な数値概念に関する高い定着度、基礎知識を問う分野で高い正答率が確認された。多角形外角の意味を理解していることを問う問題では、61.3%の正答率であり、全国平均の58.1%を上回っている。
3. 反例を示す論理的な考察力が課題である。論理的な思考を深め、反例を推察する力が必要である。
4. 基礎的な確率の理解に課題があり、基礎的な知識・技能の完全な定着に向け、指導の強化が必要である。

【理科】

【成果と課題】

1. 佃中学校のIRTスコアの平均は454であり、平均正答数は2.5であった。
2. 学力到達度を示すIRTバンドの分布において、佃中学校は、平均的な水準を示すバンド3の生徒の割合が42.5%と高い結果となっている。ただし、下位2つのバンド(バンド1とバンド2)の合計割合が45.6%に達しており、基礎基本的な知識の定着不足であることが課題である。
3. 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身につけているかどうかを問う問題の正答率は33.1%であり、全国平均の29.1%を上回り、学習指導要領の領域を超えた知識の活用において強みを持っている。
4. 「エネルギー」を柱とする領域の「知識・技能」に関する設問での正答率が低い。生徒が回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を活用して結果を予想する能力に課題がある。

【今後に向けて】

【国語】

1. 相手意識と表現の工夫を強化する指導を進める。
- ・「話すこと・聞くこと」の活動の充実、表現と効果の言語化訓練、具体的な助言作成練習、文章構造の分析と論理的な根拠記述の徹底
2. 文章構造の分析と論理的な根拠記述の徹底
- ・構造的な読解の強化、根拠に基づいた考察の訓練、「書くこと」と「読むこと」の連携

【数学】

1. 論理的な考察力と反例を提示する記述力を強化する。
- ・論理構造の深掘り指導、具体例を用いた検証の習慣化、記述による論証練習
2. 確率の基礎概念の確実な定着
- ・確率用語と定義の再確認、事象の網羅的な分析、選択式問題の意図理解

【理科】

1. 回エネルギー領域: 知識の応用と結果予測の強化
- ・電気回路の知識(直列・並列の抵抗や熱量の関係)を単に覚えるだけでなく、具体的な実験条件や仮説に当てはめて、結果(例: 電流の値など)を論理的に予測し選択する演習を強化。知識を実際の状況で「活用する力」の定着。
2. 地球領域: 地層の構造と水の関連付ける
- ・地層に関する既習の知識を関連付けながら、露頭の図などから情報を分析して解釈する練習を繰り返すことで、知識を活用して判断する能力の育成。

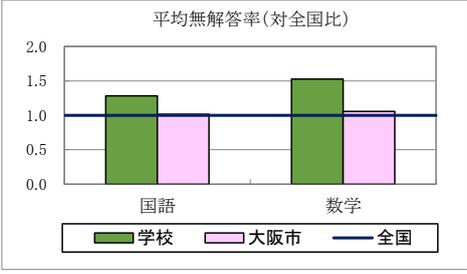
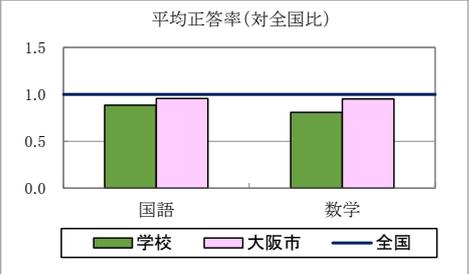
令和7年度 佃中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	48	39
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	8.6	16.2
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

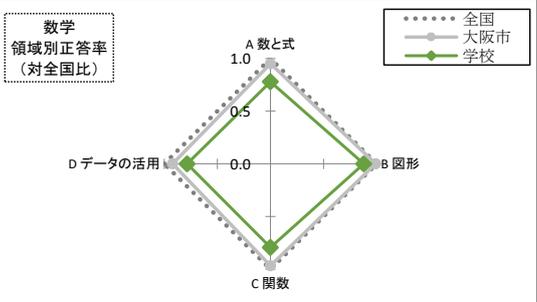
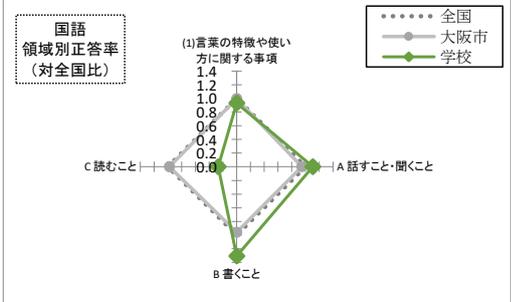
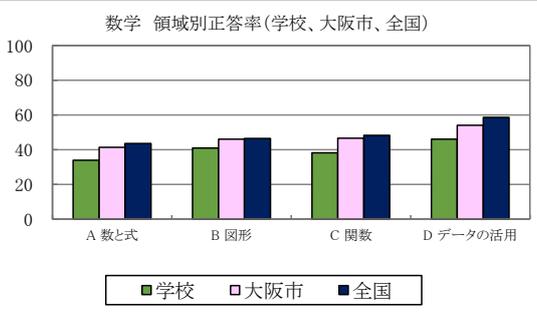
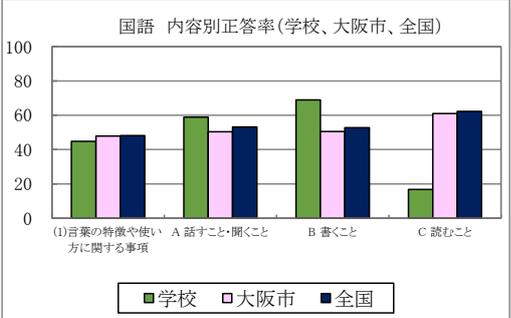


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	44.8	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	58.9	50.4	53.2
B 書くこと	5	69.0	50.6	52.8
C 読むこと	3	16.7	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	33.9	41.4	43.5
B 図形	4	40.9	46.1	46.5
C 関数	3	38.2	46.6	48.2
D データの活用	3	46.0	54.0	58.6

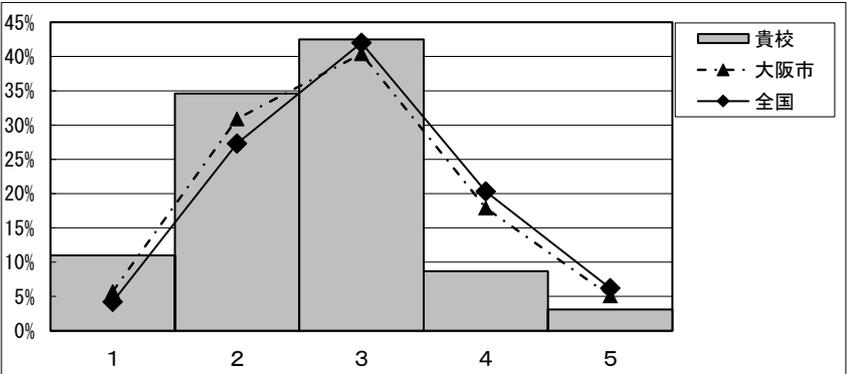
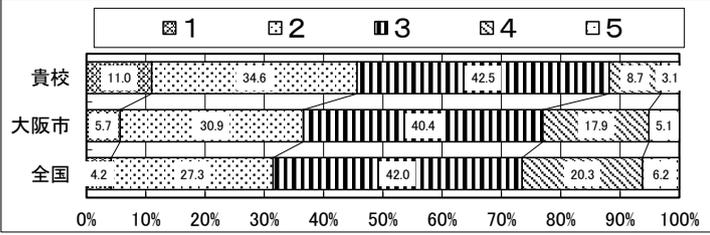


令和7年度 佃中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	454
大阪市	489
全国	503



令和7年度 佃中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

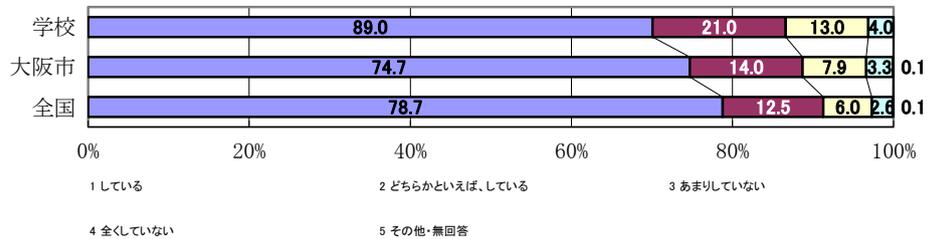
生徒質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

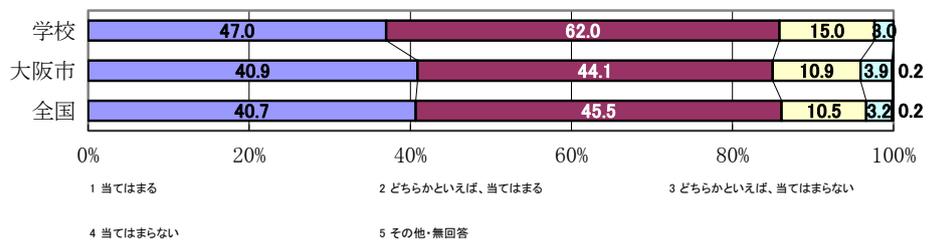
1

朝食を毎日食べていますか



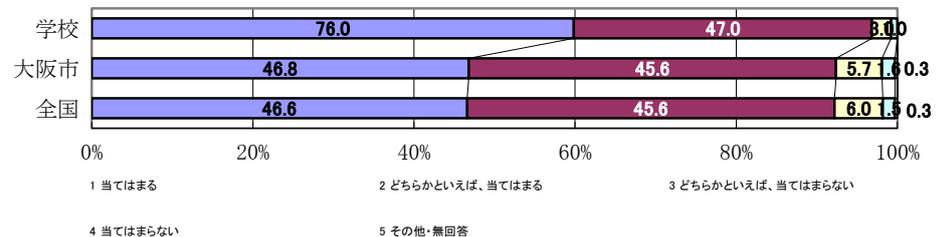
5

自分には、よいところがあると思いますか



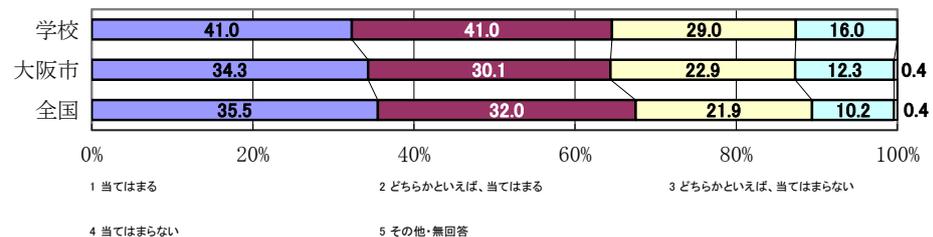
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



9

いじめは、どんな理由があってもいけなないことだと思いますか

